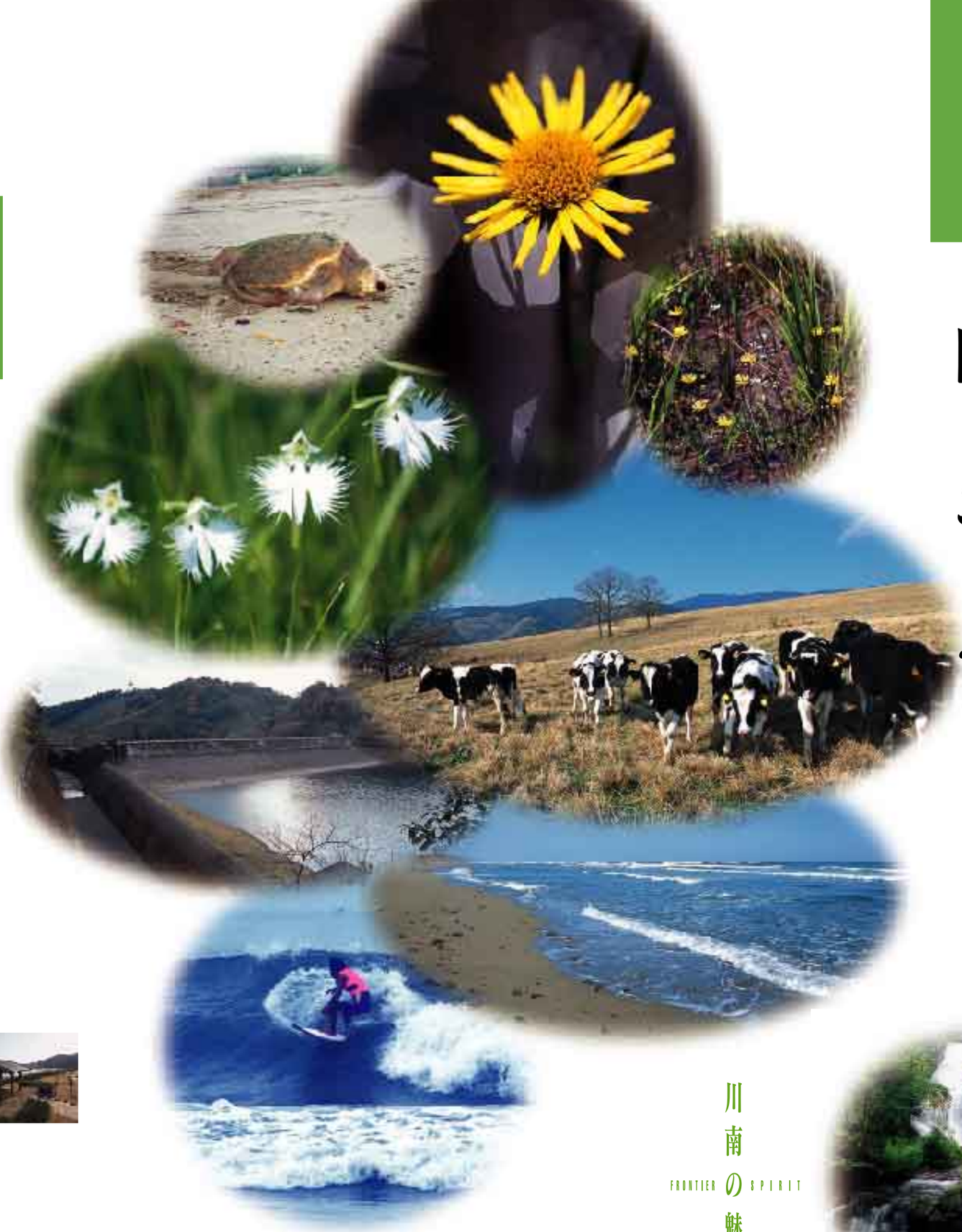
散策

自然の奏でる詩が聞こえてきそう。



川南湿原植物群落

78科283種もの植物が、国立療養所宮崎病院の北側、広さ三・一ヘタールという県下一の湿原に自生する（平成十二年現在）。昭和四十九年に国から天然記念物の指定を受けた。

国道と民家に囲まれながらも、川南の台地の下をくぐった水が地表に届き、一帯を湿らせているのだという。湿性・水性植物に限れば百十一種を確認。春から夏にかけて可憐な花が咲く。そのなかには希少植物がいっぱい。

「これ以上環境が悪化しないよう、夏頃は特にまめに手入れし、冬には一度丸刈りします。おかげでサギソウなどはビックリするくらい自生範囲が広がってきました」（社会教育課）。

壊れた環境は二度と戻らない。ゆっくり整えながら、平成二十年頃までには、専門家グループの意見の下、町の許可がなくても湿原に入れるような観察路の整備を行い、もっと植物との触れ合いが楽しめるような構想を描いている。

アカウミガメ

5580個、これは平成十四年五月～八月にかけて、県の天然記念物アカウミガメが伊倉浜と浪掛に上陸し、産卵した卵の数だ。

日向灘の海岸線は全国有数のアカウミガメの産卵地として知られる。一頭あたり百個から百五十個の卵を産み、約六十日でふ化し海にかえってゆく。宮崎で産まれたアカウミガメのなかには、太平洋を越えてアメリカ西海岸までたどりつくものもいるという。

天龍梅

数100年の樹齢を誇る。百年ほど前の大暴風雨で倒れ伏すが、その倒れた梅の木が次々と根を出し、枝を四方に伸ばし始めた。その姿が天に昇る龍のように見えたことから名づけられたもの。

川南町営村上牧場

33ヘクタールの広さを持つこの牧場、標高二百～三百メートルにあり、乳用牛百頭ほどの育成が行われる。

一般にここが知られるようになったのは、その見晴らしの良さから。入るには許可がいるが、眼下の広がりは絵に描いたパノラマのよう。

“川南合衆国”の大地が碁盤目のように見え、日向灘も一望できる。そんなところからパラグライダーのフライトポイント（初級者向け）としても人気を呼んでいる。

青鹿溜池（青鹿ダム）

90万7000立方メートルの貯水量は、ダムが完成した昭和三十四年以降、農家にとっては本当に強い味方となった。

唐瀬原の大地まで水を引き、当時宮崎では初めての全線パイプラインによる給水方式で畑に水を取り入れた。辺りは自然公園になっており、四季折々の山の風情が楽しめる。

青鹿キャンプ場

2軒のログハウスが設けられており、夏の間は引っ張りだこ。広場ではお年寄りのグランドゴルフや子供たちの賑やかな声も。

篠原みようと滝

2筋に分かれた清流が、三十メートルの高さから流れ落ちる。

向かって右側の小さな流れが女滝、左側のちょっぴり迫力のあるほうが男滝。といって、雄大な滝という感じではなく、辺りの景色にやさしく溶け込んだ仲睦まじい「みようと滝」といった印象だ。夏の涼を取るにはもってこい。

通浜海浜公園

150台の駐車スペースを持つ通浜海浜公園は、平成十四年十一月にオープン。通浜漁港のすぐそばに完成した。四・三ヘクタールとけっこう広く、芝の広場ではちょっとしたスポーツもできる。

伊倉浜自然公園と伊倉浜サーフィンセンター

2キロメートルある伊倉浜自然公園の遊歩道は森林浴にピッタリ。町内七つの学校名がつけられた林を抜け、ほうぼうでサザンカの出迎えを受けながら、所々にあるベンチやテーブルでのんびり…。

平成四年にはサーフィンセンター（いこいの家）もオープンした。なにしろここは全国に知られるサーフィンスポット。川南に永住するサーファーたちもいるほどだ。

そんな川南の海を愛するグループ「伊倉サーファーズ」の提案により、この施設が実現した。温水シャワー、和室、休憩室、コインロッカー、バルコニー、トイレなどを完備、サーファーに限らず大好評で、いろんな人たちが気軽に活用している。

川南の魅力

FRONTIER SPIRIT